

わらびの会グラウンドゴルフ大会 応援し合いながら楽しくプレー

11月3日、教育振興運動轟木地区実践協議会の「わらびの会」(臼澤文男会長)が主催するグラウンドゴルフ大会が、旧轟木小学校を会場に開かれました。当日は、地域住民40人が参加し、校舎周辺に設置された雑草や石など障害物のある計16コースをプレーしました。参加者らは、専用のクラブでボールをホールポスト目掛けて打つも、障害物に阻まれて思うように進まず大苦戦。互いに応援し合いながら楽しくゲームを進め、ホールポストにボールが入ると大きな歓声が上がっていました。



第4回町長杯ゴルフ大会 一打一打集中し熱戦繰り広げる

パシーン、バシユとボールの打球音が会場に響き渡ります——。晴天の早朝11月3日、第4回町長杯ゴルフ大会が宮古カントリークラブを会場に開かれました。少ない打数で直径わずか108ミリのカップにボールを入れられるかを競い合うこの競技には、町内から66人が参加。選手らはドライバーやアイアン、パターなどのゴルフクラブを場面ごとに使い分けながら、9ホール×2コースの合計18ホールに挑戦し、一打一打集中力を切らさないプレーで熱戦を繰り広げていました。

山田高校 56 人が植樹体験 緑の成長願いコナラ 100 本を植樹

10月24日、船越地区四十八坂の町有林内で山田高等学校(伊東理俊校長、生徒73人)の1・2年生56人が植樹体験を行いました。これは、地域自然の大切さを学び、環境保護の重要性を理解してもらおうと町が開催したもので、当日は地区内の平場にコナラ100本を植樹したほか、食害防止用の筒を設置。生徒らは小さな緑の成長を願いながら1本ずつ丁寧に植えていました。参加した佐々木茉莉花さん(2年)は「植樹から環境保全の大切さを学ぶことができました」と話していました。



「地域医療を守る会」講演会と懇談会 地域医療の重要性を再認識

11月14日、町保健センターで県立山田病院の阿部薫院長が「皆で守ろう地域医療」と題して講演会を行い、町民ら44人が参加しました。阿部院長は、同病院の診療状況などを説明したほか「人口減少が進む中、地域医療を持続して提供するためにも、町民一人一人が意識して行動することが大切です」と訴え、参加者らはメモを取りながら地域医療の重要性を再認識していました。講演会後には、懇談会も行われ、参加者からは「紹介状の必要性」や「訪問診療の要望」などの活発な意見が挙げられていました。



町のあだい

今月の題字 佐々木 千紘さん（豊間根小6年）

第40回町民駅伝大会 タスキをつなぎ競い合う

11月17日、秋の恒例行事となる町民駅伝大会が旧山田北小学校周辺で開かれました。今回で40回目の開催となる同大会には9チーム46人、8歳～87歳の幅広い年齢層の健脚自慢が参加しました。選手らは1周1.8kmの5区間を仲間とタスキをつなぎながら、ひとつでも順位を上げようと白熱したレースを展開。上位を目指して競い合う選手の姿に、沿道の観客から大きな声援が送られていました。各部門の優勝チームは次のとおりです。▶小学生女子の部…ホエールズA▶中学生男子の部…山田中駅伝部▶高校・一般男子の部…MM2



豊間根小で大豆収穫体験 地元農業の重要性を学ぶ

11月15日、豊間根小学校(富澤広子校長、児童109人)の3年生22人が、同校近くの農地で大豆の収穫体験を行いました。これは、農業の大切さを学んでもらおうとゆたか農産やまだ(瀬川智宏代表)が開催したものです。例年約20kgほどの大豆が収穫されますが、今年は天候や気温などの問題で収穫量が減少。児童らは植物を育てる難しさを体験したほか、収穫された大豆が学校の給食に使用されていることなど地元農業の重要性を学びました。参加した大川千尋さんは「たくさんは採れなかったけど、楽しく大豆を収穫できました」と満足気な表情でした。

山田小学校に復興支援 児童らがウミネコザクラを植樹

10月17日、山田小学校(佐々木哲也校長、児童447人)でウミネコザクラ2本の植樹が行われました。これは、東日本大震災直後から町内の学校を対象に復興支援を続けている“山田町へ届け・東日本大震災復興支援団体”(中村千春代表)から贈られたものです。当日は、環境委員会の6年生11人が、地元造園業者からアドバイスを受けながら、スコップで掘った穴に3cmほどの木を丁寧に植樹。参加した佐々木義仁さんは「サクラを大事に育てたいです。来年、きれいに咲くのが楽しみです」と来年の開花が待ち遠しい様子でした。

